進路だより

”高きを仰ぎ 最善を尽くす ”

令和4年　9月26日発行
第５号
前橋工業高校 進路指導部

工業高校における安全教育について　（9/21 NHKニュースで放送されました！）

９月２０日（火）５、６校時に１年生対象の安全教育を実施しました。機械系（機械科・電子機械科）、電気系（電気科・電子科）、建設系（建築科・土木科）のすべての学系学科で実施するのは**全国で初めての取組**になります。『産学官』の連携を図り、安全に関わる講演を始め、悲惨な労働災害を擬似的に体験できる安全体感機などを用い、安全について学習しました。

生徒が社会に羽ばたく前に安全を理解・体感し、将来にも生かすことや社会貢献できるようになってほしいと思います。

県立前橋工業高校

企業招き安全教育

重機の死角などを体感

県立前橋工業高校（森英也校長）は20日、1年生240人を対象に2022年度工業高校における安全教育を行った。第1部では、厚生労働省群馬労働局労働基準部健康安全課の吉永宜司課長による安全教育講演会。第2部としては、企業による安全教育の体感などを行った。

吉永課長は、労働災害の発生状況を説明した上で、人間尊重の理念やKY活動の意味とともに、自分だけでなく周りの人たちの安全も守る意識を持つことなど、図やイラストを用いて労働災害防止の重要性を呼び掛けた。

第2部では、各学科ごとに考えられる労働災害の危険性を体感できるよう、機械系1社、電気系2社、建設系1社を招いて講義を行った。

建設系で講義を行った佐田建設（前橋市）は、タイヤローラーの安全装置の働きや死角の体感、トレーラーの内輪差などを実演。高校生に危険性を伝えた。

佐田建設安全品質環境部の與口昭徳次長は「仕事だけでなく、通勤、通学の時にも事故に合わないようにルールを守ることが大切」と話した。

重機の危険性を実感

1年生240人が学んだ

【9/22 日本工業経済新聞より抜粋】

ショート、線路点検…

労災事故を疑似体験

前橋工高で安全教育

実習時の安全確保や就職後にもつながる高い安全意識を持ってもらおうと、前橋工業高（森英也校長）は20日、校内で安全教育を行った。群馬労働局や企業4社が協力し、全学科の1年生約240人がトラブルを再現する装置などで労災事故を疑似体験。同校によると、電気系や機械系、建設系の工業高校で初めて行う安全教育は全国初という。

電気系では住宅用の電気メーターのショート事故を再現し、接触点を近づけると鳴りよく火花が飛び散った。仮想現実（VR）で線路の保守点検中の事故も再現。機械系では腕や指に見立てた木片を差し込むと、挟まれたり巻き込まれたりして砕ける様子が実演された。建設系では生徒が大型重機の運転席に座り、いかに死角が生じやすいかを確認した。

電気による事故を疑似体験した機械科の原口馨太さん16は「やってみて怖かった。これからも安全には十分注意したいと話した。

森校長は「実習にも今後就職する際にも、高い安全意識は最も大切」キャリア教育にもつながる」とした。

安全教育講話もされわれ、群馬労働局健康安全課の吉永宜司課長が県内の労災事故の発生状況などを解説した。日本キャンパック、東京電力パワーグリッド、東日本電気エンジニアリング、佐田建設が協力した。（石倉雅人）

住宅用の電気メーターでショート事故を体感する生徒（左）

【9/21 上毛新聞より抜粋】

NHKニュース抜粋

【安全教育講演会】

【機械系の巻き込まれ体感】

【機械系のシリンダ残圧挟まれ体感】

【電気系の高所作業体験】

【電気系の短絡体感】

【電気系の保守点検ＶＲ体験】

【建設系の死角体験】

【ＮＨＫ放送局による取材】

【感謝状を贈呈】